

公益社団法人全国大学保健管理協会 国際連携委員会、国立大学法人保健管理施設協議会 国際交流委員会  
平成26年度 合同開催 議事録メモ

平成 26 年 9 月 3 日(水) 12:30-13:30 (慶応義塾大学 461 教室)

委員:

(出席者)

国際連携 山本 眞由美(岐阜大学)(委員長)、佐藤 武(佐賀大学)、中川 克(立命館大学)、西尾 彰泰(岐阜大学)、林多喜王(北陸先端大学院大学)、守山 敏樹(大阪大学)、吉川 弘明(金沢大学)

国際交流: 山本 眞由美(岐阜大学)、岩崎泰正(高知大学)、鈴木眞理(政策大学院大学)、富樫整(山形大学)、馬場久光(神戸大学)、吉川 弘明(金沢大学)、大塚盛男(筑波大学)(大塚先生は今年度いっぱい御定年)

(欠席者)

河邊 博史(慶應義塾大学)、立身政信(岩手大学)

(1) 昨年度からの活動をまとめて、委員長から説明があった

- 1) 国際連携委員会開催:平成 25 年 6 月 14 日(キックオフ)、平成 26 年 6 月 6 日
- 2) 国際連携委員会・国際交流特別委員会と合同開催:平成 25 年 11 月 14 日
- 3) ACHA 年次集会(平成 25 年 5 月 31 日、ボストン):ポスター発表(吉川、林、山本)、日米スモールレセプションなど
- 4) ACHA 年次集会(平成 26 年 5 月 30 日、サンアントニオ):ポスター発表(吉川)、セッション企画(中川、西尾、山本)など
- 5) JUHA で米国と英国の協会より招聘講演(Dr.Anita Barkin, Dr.Irene Weinreb)を開催した(平成 25 年 11 月 13-14 日)
- 6) 留学生の健康管理実態調査を実施:平成 26 年 9 月 4 日ポスター発表(H1-4)

(2) 今後の活動について、以下の項目について、委員長から提案があり、具体的に成果をどのように出していくかの議論がなされた。

- 1) 学生の健康管理実態調査結果を Campus Health へ投稿予定 ⇒ 委員長が中心になって、初稿を作成することとした。
- 2) 留学する日本人学生へのパンフレット作成と情報提供: 医官ブログから現地の情報を収集、ACHA と情報共有  
米国から:ドラッグ、ネット依存、DV、ヘルスポリシー、留学生受け入れの対応、など  
日本から:ひきこもり、学生白書・休学退学調査、健康診断、メンタルスクリーニング、感染症対策、職員健康管理、など  
⇒ 日本語(留学する学生さんへ)のパンフレットを作成する:中川先生に中心になっていただき、守山先生(大阪外大と阪大は合併したので海外へ留学する学生は多い)や河邊先生(海外赴任中の医官ブログや WHO の仕事などにお詳しい)と一緒にまとめあげていただく。中川先生より ACHA の HP には各種マニュアルが出ているので、この内容の紹介もできるだろうとの意見あり。
- 3) 留学生への啓発パンフレット(英語版)を作成  
⇒ 英語版パンフレットの作成  
健康診断(山本)、睡眠(粥川)、食事(岐阜女子短大)、運動(岐阜薬科大)、タバコ(飯田)、酒・薬物(天野)、日常の症状(森田)、けが処置(木下)、スポーツ外傷(益田)、実験中の事故(戸部)、救急対応(岐大救急部)については、岐大が中心になって作成した「健康ナビ」(日本語版)の原稿を英訳したものがすでにある。これをパンフレット化して、協会や協議会の HP にアップしてセミオープン形にしてしまうことについて委員長から提案があり、了承された。  
感染症について ⇒ 馬場先生より、国立大学法人 保健管理施設協議会 エイズ・感染症特別委員会の方で「感染症ハンドブック」(日本語)を作る予定になっているのでそれを英訳する方向でよいのではと示唆があった。  
日本の医療制度 ⇒ 鈴木先生を中心に、医療保険の仕組み、病院のかかり方などに関する原稿を作成いただく。中川先生にも(留学生の多い大学の立場から)協力していただく。海外からの紹介状についても触れていただく。  
メンタル支援 ⇒ 佐藤先生、西尾先生に作成していただく。特に留学生向けの内容にしていただく。
- 4) ACHA 共同研究企画:テーマはメンタル、タバコ、生活実態などか? 日米共同研究の橋渡し、など  
⇒ 科研費応募は、なかなか難しいと思われるが検討していく。
- 5) ACHA(平成 27 年 5 月、オーランド)へポスター、セッション応募予定  
⇒ 9 月 15 日×切であることの報告があった。

### (3) その他

#### ① 佐藤先生より

チェジュ大学(韓国)の保健管理センター見学の結果について説明があった。韓国ばかりでなく、台湾でも(日本のように)医師が常駐しているのではなく、看護師だけの(いわゆる)保健室しかないようである。また、全国大学保健管理協会のような全国組織もない。したがって、アジアの中では、日本はこの分野で進んでおり、アジアのリーダーシップを執る立場にあると思われる。

#### ② 米国との共同研究について

予算は、ACHA の基金があるので米国から少々期待できる。日本側からは、難しいので科研費に応募するか？しかし、テーマが難しい。ただ、パンフレットを作るなどの成果物のためのテーマでは科研費はとれないだろう。では、日米の比較研究としても、そのテーマが難しいだろう。例えば肥満では、日米で比較にならない。

⇒ テーマ・予算ともに、今後、検討を続けていくことになった。